

(資料1)

平成19年4月11日
京阪電気鉄道株式会社

一川に顔を向けた駅づくりー

天満橋駅が水都大阪のシンボル

水陸交通ターミナルになります

中之島とその周辺エリアは、中之島線の建設工事の進捗とともに再開発が本格化し、川沿いのロケーションともあいまって水都再生の象徴となっています。なかでも中之島線の起点となる天満橋は、大阪府が八軒家浜の整備を行い、平成20年春には水上ターミナルを建設するなど動きが最も活発な地区です。

このたび京阪電気鉄道(株)では、水上ターミナルに直結するエントランスを開設するなど平成20年3月完成を目指して天満橋駅を改造し、水陸交通ターミナルという新発想の駅づくりを行います。

「水の都、大阪はかつて舟運が主要な交通手段であったことから、川沿いにある建物は、川に向かって出入り口を配置し、個性的な都市景観を形成していました。しかし、その後の河川改修により垂直護岸が次々と建設され、人や船の接近を拒絶したため、川沿いは建物の裏側が壁のように立ち並ぶ現在のような姿になってしまいました。

京阪グループでは、昭和58年より大阪水上バス(株)を通じて、大川(旧淀川)で「アクアライナー」や「ひまわり」などの観光船事業を営み水都再生に取り組んでまいりました。また、天満橋駅は現在建設工事を進めている中之島線と京阪本線が分岐する、鉄道ネットワークの一大拠点となります。この水陸交通を一体化する「川に顔を向けた駅」、「電車を降りたら船着場、という発想が、大阪の本来の個性を取り戻すきっかけづくりになればと考えています。

加えて駅ビル内商業施設「パナソニック京阪天満橋」をリニューアルし、賑わいづくりも行うことにしています。

平安時代には「渡辺の津」と呼ばれ、京都を船で出発した「熊野御幸」の一行が陸路をたどる出発点として、また江戸時代には伏見との定期便である三十石船などの船着場「八軒家浜」として、常に水都の中心であった天満橋が新たな時代を迎えます。

天満橋駅ならびに駅ビル内商業施設のリニューアルに関する概要は別紙のとおりです。

(別 紙)

1. スケジュール

- ①着工 平成 19 年 5 月
- ②竣工予定 平成 20 年 3 月

2. 総投資額

約 12 億 8 千万円

3. 計画概要

① 天満橋駅改造工事

水都再生事業「八軒家浜整備」の一環として、大阪府が新設する `船着場、の完成に合わせ、中之島線開業に向けた天満橋駅および駅周辺活性化策を実施する。

駅ビル北側部分にエントランス設置	2 箇所
エレベーター新設	1 基
駅案内所新設（駅構内レイアウト変更）	

他

② パナンテ天満橋リニューアル工事

天満橋駅改造に合わせリニューアル工事を実施する。

従来の飲食機能に加え、物販・テイクアウト機能を拡充し、利用者の日常に利便性と潤いを提供する駅ナカ商業施設への転換を図るとともに賑わいを創出する。

- ・ 初年度売上目標 約 18 億円
(平成 18 年度実績 約 1 2 億円)



大川から見た天満橋駅（イメージ図）

以 上